

災害発生を想定して行われた宿泊訓練



本学は2005年に千代田区と大規模災害時に定める一時的な施設の提供をきた。代田区と大規模災害時に定める一時的な施設の提供をきた。代田区と大規模災害時に定める一時的な施設の提供をきた。

大規模災害が発生したとき、大学ができることは。研究者によるシンポジウムと、学生による宿泊訓練が12月21、22日、神田キャンパスで行われた。帰宅困難者を受け入れる場合の注意点や、実際にどう行動するか、参加者は知恵を出し合いながら、「万が一」の事態への心構えを新たに。千代田区キャンパスコンソ(※1)との共催、千代田学(※2)共同提案事業の一環。

千代田区キャンパスコンソ共催
千代田学共同提案事業

避難所運営初の宿泊訓練

災害発生を想定し、本学施設を利用した宿泊訓練は初の試みとなる。1号館地下3階の体育館を拠点に、SKVの学生24人に加え、佐竹弘靖学生部長(ネットワーク情報学部教授)も参加した。

午後5時過ぎ、緊急地震速報(訓練用)により活動開始。寒さ対策や簡易トイレ製作などに取り組んだ。

訓練の一環として、停電も体験した。突然、体育館の電気が消えると、学生たちは、とっさに水入りのペットボトルにスマホのライトをあてて簡易照明とするなど、これ

まで学んできた知識を生かして対応した。その後、簡易照明を頼りに地下3階から地下1階までの動線を確認した。体育館で一夜を過ごした学生たちは翌朝、避難所ではエコノミークラス症候群になる確率が高いことから、全員でラジオ体操を実施。フィードバックでは、検討課題などを報告した。

SKV代表の萩原陸仁さん(商3)は「床の硬さ、心と体のしんどさを実感できた。今後、避難所運営に携わる機会があれば、被災者に寄り添って行動したい」と語った。

文学部ジャーナリズム学科の福富忠和ゼミは今年度、4年次生が中心となり、17人が中能登地域の「今」を伝える動画制作に取り組んだ。企画、取材、撮影、編集の全工程を手がけ、特産品や移住をテーマに計10本を制作。YouTubeに開設したチャンネル「能登の今」(＠luno)で順次配信している。

中能登で取材・撮影を行う福富ゼミ生

取材対象者の自宅をドローンで撮影

活動は、石川県七尾市、羽咋市、中能登町とその住民でつくる「能登の今」(＠luno)で順次配信している。

「中能登地域の現状と魅力を伝えて人を呼び、地震復興の手助けをした」と。ゼミ生はチームごとに企画を練り、夏休みを利用して計3回、2市1町を訪問。人々の話に耳を傾け、現地の今をカメラに収めた。

ディレクターを務めた熊野留人さん(4年次)は「中能登地域では営業を再開している店舗なども多い。動画をきっかけに興味を持ち、現地で観光や食事、買い物を楽しんでもらえたらうれしい」と語った。

シンポジウムとワークショップも開催

宿泊訓練に先立ち、防犯、事業者とのつながりについて意見交換。フアシリテーターを務めた国際コミュニケーションの学びと地域防災」をテーマに、講演とパネルディスカッションが行われた。防災工学に取り組み、ネットワーク情報学部の佐藤慶一教授、SKV学部の小林貴徳准教授が「結びつける、つなげる」と議論をまとめた。江波戸拓哉さん(法4)は「今後は他大学とのネットワークを広げていきたい」と展望

を語った。学内の防災施設見学のワークショップを実施した。

千代田学共同提案事業における本学の共同研究者である小林准教授とSKVで事前に「SKUG」を作成。当日は、1、2年次生を中心に約30人が参加した。いろいろな状況の被災者を受け入れるかどうか、受け入れ場所や注意点を相談しながら、施設運営を疑似体験した。

千代田学共同提案事業における本学の共同研究者である小林准教授とSKVで事前に「SKUG」を作成。当日は、1、2年次生を中心に約30人が参加した。いろいろな状況の被災者を受け入れるかどうか、受け入れ場所や注意点を相談しながら、施設運営を疑似体験した。

千代田学共同提案事業における本学の共同研究者である小林准教授とSKVで事前に「SKUG」を作成。当日は、1、2年次生を中心に約30人が参加した。いろいろな状況の被災者を受け入れるかどうか、受け入れ場所や注意点を相談しながら、施設運営を疑似体験した。

千代田学共同提案事業における本学の共同研究者である小林准教授とSKVで事前に「SKUG」を作成。当日は、1、2年次生を中心に約30人が参加した。いろいろな状況の被災者を受け入れるかどうか、受け入れ場所や注意点を相談しながら、施設運営を疑似体験した。

千代田学共同提案事業における本学の共同研究者である小林准教授とSKVで事前に「SKUG」を作成。当日は、1、2年次生を中心に約30人が参加した。いろいろな状況の被災者を受け入れるかどうか、受け入れ場所や注意点を相談しながら、施設運営を疑似体験した。

千代田学共同提案事業における本学の共同研究者である小林准教授とSKVで事前に「SKUG」を作成。当日は、1、2年次生を中心に約30人が参加した。いろいろな状況の被災者を受け入れるかどうか、受け入れ場所や注意点を相談しながら、施設運営を疑似体験した。

※1 千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム。近接する6大学(短大と行政、産業界が連携して、教育や地域発展に資する取り組みを行う。

※2 千代田学。千代田区内の大学が、区のさまざまな事業を調査・研究する。共同提案事業は、複数の大学が協力して行い、24年度は千代田キャンパスコンソ加盟の8校で、「大規模災害時における学生ボランティアの育成とネットワーク化に関する研究」を実施している。

帰宅困難者支援施設運営ゲームに取り組んだ



千代田学共同提案事業における本学の共同研究者である小林准教授とSKVで事前に「SKUG」を作成。当日は、1、2年次生を中心に約30人が参加した。いろいろな状況の被災者を受け入れるかどうか、受け入れ場所や注意点を相談しながら、施設運営を疑似体験した。

商・増田ゼミ × カンロ 産学連携プロジェクト

商学部の増田明子ゼミとカンロ株式会社(東京都新宿区)の共創商品「#チョコじゃねーよアメだよ」が1月28日、新パッケージでリニューアル発売された。

マーケティングを学ぶ増田ゼミは、カンロと「Z世代向けのアメの提案」をテーマに産学連携プロジェクトを実践。昨年度、ゼミ生がコンペ形式で提案した企画から、「#チョコじゃねーよアメだよ」の商品化が実現した。

今回のリニューアルにあたり、2年次生22人、3年次生19人がパッケージや個包装のデザイン案を考えた。個包装にあしらったフレーズはゼミ生全員で案を出し合い、「#いつかじゃね

「Z世代向けのアメ」リニューアル発売

ーよいまだよ」「#勘違いじゃねーよ恋だよ」などの新作を加えて全50種類に増やした。ゼミ生は「恋愛からコミカルなものまで多彩なフレーズを用意した。渡す相手やシチュエーションに合わせてシェアしてほしい」と話す。

「#チョコじゃねーよアメだよ」は195円(税込210.60円※消費税8%)。全国のセブン-イレブンで数量限定にて販売中(店舗により取り扱いのない場合あり)。



商品を手にする3年次生

ニユー ス 専 修

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
☎101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

https://www.senshu-u.ac.jp/

主なニュース

国家総合職試験 教養区分で2人合格……②
神奈川県産学チャレンジ5組が最優秀賞……③
4年次生による就職活動体験記……④
寄付者芳名(24年4〜10月)……⑤
石巻専修大学 理工・卒業研究発表会……⑥

問題解決型チャレンジ
プログラム成果発表会

2024年度
卒業式・
学位記授与式

日時: 3月22日(土) 10時開式予定
場所: 日本武道館 (東京都千代田区北の丸公園2-3)

式典終了後、神田キャンパスで学位記の交付を行います。
ご家族の入場は、卒業生・修了生1人につき1人とさせていただきます。

「ニユー ス 専修」3月号は3月26日(水)発行予定です。
最新の情報は大学ホームページ、公式X、Facebookでご確認ください。

活動は、石川県七尾市、羽咋市、中能登町とその住民でつくる「能登の今」(＠luno)で順次配信している。

「中能登地域の現状と魅力を伝えて人を呼び、地震復興の手助けをした」と。ゼミ生はチームごとに企画を練り、夏休みを利用して計3回、2市1町を訪問。人々の話に耳を傾け、現地の今をカメラに収めた。

ディレクターを務めた熊野留人さん(4年次)は「中能登地域では営業を再開している店舗なども多い。動画をきっかけに興味を持ち、現地で観光や食事、買い物を楽しんでもらえたらうれしい」と語った。